

## アステリア株式会社

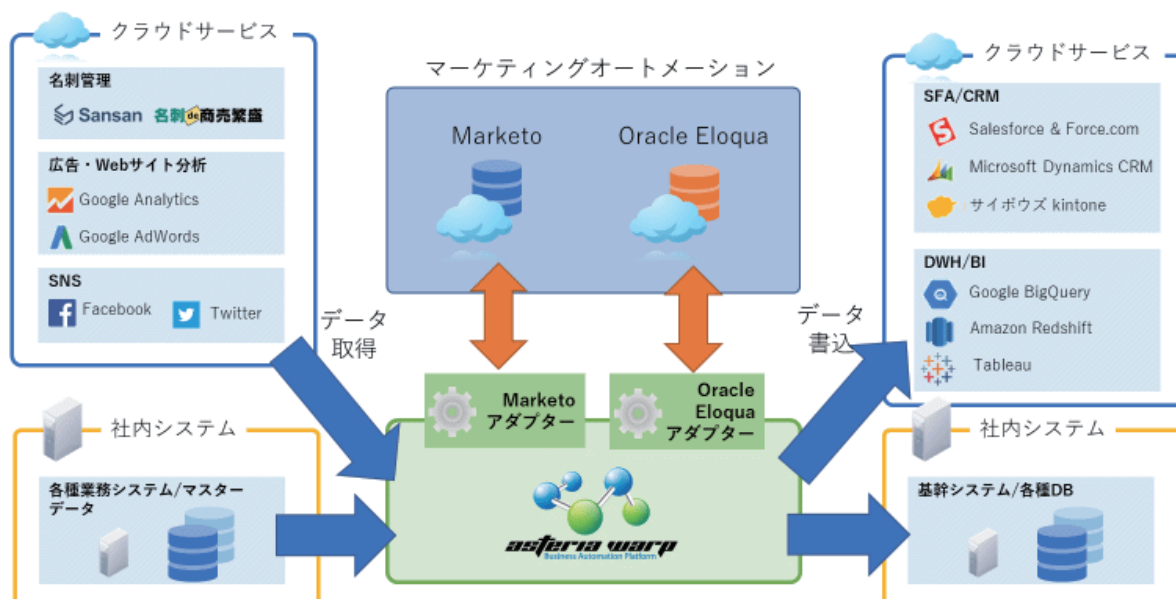
日本市場での No.1 シェア ETL ツール ASTERIA WARP に CData JDBC Drivers を組み込み、SaaS/Cloud DB へのシームレスな連携機能を拡充。

アステリアは、企業向けデータ連携製品（EAI/ESB 製品）の国内市場において 10 年連続市場シェア No.1(\*) を獲得している ASTERIA WARP などのデータ連携ツール ASTERIA シリーズの販売を通じて、さまざまなシステム間の連携とデータの変換を行うロジックをノンプログラミングで実現しています。アステリアは、CData と共同で CData JDBC Drivers の ASTERIA への組み込みを実施し、CData の 70 を超えるデータソースへの連携を順次リリースしています。

\*出典:テクノ・システム・リサーチ「2016年ソフトウェアマーケティング総覧 EAI/ESB市場編」。出荷量ベース。

### <実現された価値>

Challenges	Solutions
<ul style="list-style-type: none"> <li>• ASTERIA WARP 上で提供される SaaS/Cloud DB アダプターの拡充</li> <li>• 標準 SQL を利用してのデータ処理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• CData JDBC Drivers を組み込んだ ASTERIA WARP アダプタを開発</li> <li>• CData 自動ビルドシステムで安定提供</li> </ul>



出典：アステリアプレスリリース [https://www.infoteria.com/jp/news/press/2017/03/28\\_01.php](https://www.infoteria.com/jp/news/press/2017/03/28_01.php)

### ETL/EAI ツールのクラウドデータ連携のニーズ

昨今、業務アプリケーションでは SaaS の利用が急速に拡大しています。CRM、会計、ERP、マーケティングオートメーション、グループウェア、ワークフロー、決済などの FinTech、さらにクラウドサービスとして提供される DB、NoSQL DB など多くの便利なサービスが提供され、多くの企業が利用しています。これらの SaaS は基本的にはサービス単体で利用することを想定していますが、他のアプリケーション（カスタムアプリ、ツール、他の SaaS など）との連携のために API（Application Programming Interface）が用意されています。しかし、API は規格化が進んでおらず、それぞれの SaaS で大きく利用方法が異なっており、クラウドデータ連携は容易ではありません。データ連携ツールがクラウドとの API 連携を機能として内包することで、ユーザーは個別の API を意識することなく、シームレスな連携によりマスターデータ管理やオートメーションを実現することができます。

CData JDBC Drivers の組み込みによる、ASTERIA WARP アダプタの拡充につき、アステリアの平野社長および R&D センターの田村センター長にお話を伺いました。



**Q: SaaS や Cloud DB とのデータ連携についてどう思いますか？**

平野氏: API を持つソフトウェアやサービスが増加しています。それは、単独のソフトウェアやサービスだけでビジネスやプロジェクトが完結することはまずなく、ソフトウェアやサービスを組み合わせて使うのが当たり前になってきているからです。

30 年ほど前に提唱された ERP は企業全体のリソースプランをその 1 つの閉じた中で行う理想を掲げ、そして普及してきましたが、現在では ERP ベンダーですら外部とのデータ連携ツールを出していることから、連携が必須であることがわかります。

**Q: データ連携ツールでのデータ連携の重要性は API により低下するのでしょうか？**

平野氏: API とビジネス現場には大きなギャップがあるのです。ビジネスの現場では、クラウドの時代になり、他社や他部門やクラウド上に偏在する専門のサービスを組み合わせて使う必要が増しています。この流れはますます加速していくにもかかわらず、エンジニアでしか使えないような形で API という接続口が提供されているだけ。「プログラミングをせずに連携できる」ツールのニーズは無くなるどころかさらに高まるのです。私たちインフォテリアとしては、ASTERIA WARP に増加する SaaS への連携アダプタを提供するために、自前主義に陥ることなく、方向性を同じくするエキスパートである CData と協働していきます。

**Q: CData Drivers を組み込んだ ASTERIA アダプタの開発や使い勝手はいかがですか？**

田村氏: ASTERIA はサードパーティがアダプタを開発する SDK を持っています。CData に ASTERIA SDK を提供し、CData 側に JDBC Drivers を ASTERIA アダプタとして使えるように Wrapper を作成してもらいました。元々 CData JDBC Drivers は SaaS データを RDB にモデル化し、標準 SQL が使える仕様になっており、組み込みは非常に上手くいきました。CData Japan ・アメリカの CData 本社とも開発・サポート双方で信頼できるパートナーだと思います。引き続き提携を密にし、お客様がデータ連携を希望するクラウドアプリケーションの多くに応えられるよう、ASTERIA アダプタの拡充を目指します。



アステリア株式会社  
本社：東京都品川区  
設立：1998 年 9 月  
資本金：11 億円  
売上高：16 億円

同社ウェブサイトより

CData は、米 CData Software, Inc. の登録商標です。他社製品名などは各社の商標です。掲載内容は取材当時のものです。

TEL 050-5578-7390

URL [www.cdata.co.jp](http://www.cdata.co.jp)

Email [sales@cdata.co.jp](mailto:sales@cdata.co.jp)